



中北マナーキャラクター
中北みどりちゃん

前回の「Nakakita Smile 通信 71 号(春号)」で【祝儀のマナー】についてご紹介したところ「不祝儀のマナーについても知りたいです」との声を数多くいただきました。そこで、今回は【不祝儀のマナー】についてご紹介いたします。



不祝儀とは

不祝儀とは、葬式や香典のことを指します。通夜、葬儀、告別式に参列する際には、不祝儀(香典)を持参します。香典は、本来「亡き人に手向ける香や花の代金」という意味があります。最近では、弔意を示すためのお金という意味が強くなっています。

水引・表書き

宗旨宗派により、不祝儀袋や表書きが異なります。

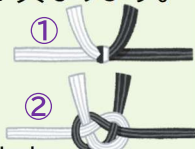
◆水引(①結び切り・②あわじ結び)

水引は、結び切り、あわじ結びが使われます。

水引の色は、包む金額により違います。

黒白・青白(印刷タイプ):三千元～五千元

黒白・黄白:一万円～五万円、双銀:五万円以上。



◆表書き

【仏 式】

一般的に通夜や葬儀の際は、「御霊前」。

四十九日以降は、「御仏前」または「御佛前」。

他にも「御香典」、「御香料」、「御悔」など宗派や地域により、違いがあります。

【神 式】

御神前、御玉串料、御榊料、御霊前。

【キリスト教式】(水引は不要)

(カトリック)御花料、御ミサ料、御霊前。

(プロテスタント)御花料、献花料、弔慰料。

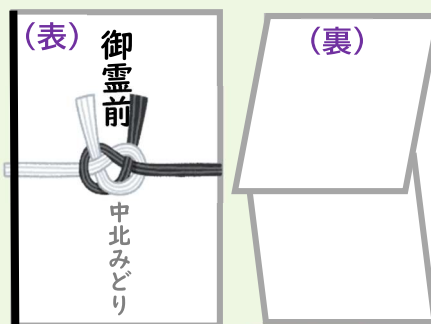
不祝儀袋のマナー

不祝儀袋には、「のし」はついていません。

不祝儀の中袋に入れるお札は、祝儀の新札とは違い、少し使ったものを用意します。新札を入れると“故人の死を待っていて新札を用意していたのでは”と思われるのではないか、という気遣いから生まれました。(諸説あり)

名前は、悲しみや涙を表す色とされている薄墨で書きます。香典は「袱紗」に包んでいくのがマナー。お渡しするときは「袱紗」から取り出し、お悔やみの言葉を述べてから、両手をそえて渡します。

<上包み>



故人との別れを惜しむ、悲しみを表す意味から、上包みの下を折ってから上を折る。

<中 袋>



お札の向きは、中袋を裏向きにし、お札の人物が下にくるように入れる。

参考文献:日本人礼儀作法のしきたり(著:飯倉晴武)

心遣いで、「お悔み」の気持ちをお伝えしましょう。

